

定山溪中学校 歌川雅也 先生



「この地の森の息吹を肌で感じながら学んで欲しい。」理科を担当する者の願いが叶いました。さらに今回の体験を通じ、自己を見つめ生き方にまで思いを巡らせる生徒がいたことは、望外の喜びでした。それはすばらしい方々との出会いから生まれたものです。

第一線で活躍されている森林管理局や講師の方皆さんが、小・中学生にどうしたらよりよく伝わるかを苦心され、準備され、常に真摯な姿勢で向き合ってくださいました。森を歩き、育て、森に学ぼうとする人たちの願いや森を愛する気持ちが、生徒の心に届いたのだと思います。

春、卒業生が巣立っていきました。「ふるさとの森に自分が種をまいた木々が育っている」ことを、きっといつか遠くの山並みを眺めながら振り返る時があるでしょう。後を継ぐ在校生達は目をキラキラさせながら来年度の活動を心待ちにしています。この取り組みが、木々が育っていくのと同じように長く続いていくことを願っています。